

【農業水利施設の魅力を知ってほしい (No.11) ; イタリア・ピエモンテ州の水田地帯 (2024年3月)】

農地基盤情報研究領域 地域防災グループ上級研究員 廣瀬裕一

3月は2月に続いて、イタリアの水田地帯の様子を紹介する。今月は2014年5月上旬にピエモンテ州ノヴァーラ周辺の用水路および水田地帯を訪問した様子の紹介である。ちょうど田植えの時期の訪問であったので、2月とは異なる様子を紹介できると思う。

ピエモンテ州のノヴァーラの町から西へおよそ20kmの場所(図2)にある、カサルベルトラーメとビアントラーテ周辺の水路の水田を紹介する。イタリアの水田地帯の農業水利システムを部分的ではあるが見てみたいと思い訪問したが、訪問した場所においては水路の大部分が土水路であったことや、古い樋門が利用されていること、分土工の落差を利用した小水力発電施設が整備されていることを確認した。他方、田植えが湛水直播であることといったわが国と異なる点もあった。

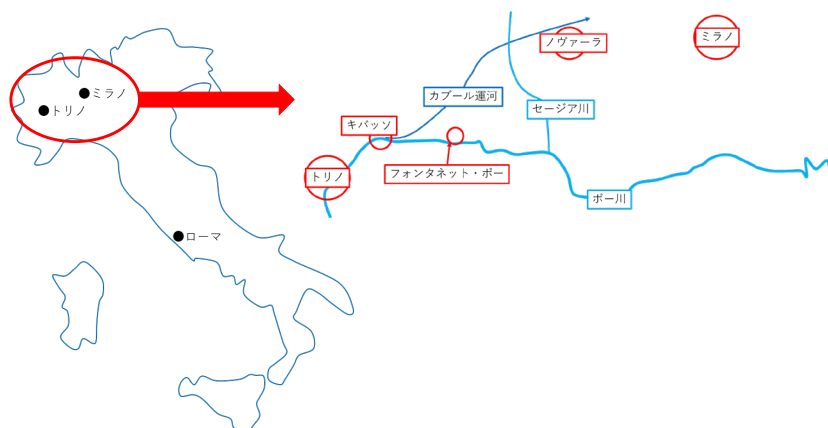


図1 紹介エリア



図2 3月号で紹介するエリア

1. カサルベルトラーメ周辺の水路・水田

カサルベルトラーメでは、町中心部から小河川まで（図2）歩いて、現地の水田や農業水利施設の様子を観察した。

図3のAはらせん式水車で小水力発電を行っているようである。Bの分水工の落差を利用して発電していた。分水工にあるゲートやコンクリート製水路は、大変古い施設に見えるが、近所にあった、例えばCの排水路を跨ぐコンクリート製のちょっとした「樋」も古く見え、イタリアでは農業水利施設の「ストックマネジメント」はどうしているのだろうか、と思ったものである。なお、図2で「小河川」とした水路の様子をDに示す。4月ということもあり、流量も多かった。



図3 カサルベルトラーメ周辺の農業水利施設および田植えの様子

図4はカサルベルトラーメ周辺の末端水路の様子である。土水路で風情が感じられる(A)一方で、濁水が流れ込んでいるわが国でもたまに見る光景もあった。水路には水草も生え(C)気持ちよく散策できた。なお、田植え(D)にも遭遇したが、当地ではわが国と異なり湛水直播であった。



図4 カサルベルトラーメ周辺の水路の様子

2. ビアンドラーテ周辺の水田・水路

カサルベルトラーメから北上し、カブール水路（トリノ近郊のキバツソ付近にある頭首工からポー川の水を送水する灌漑水路）付近を散策した。水路沿いには並木が整備され（A）整然とした景観である。水路をまたぐ橋も煉瓦造りで、いかにもヨーロッパといった印象を受けた。C・Dはカブール水路と別の水路が交差している様子で、潜る水路から見て上流側からの写真がCで下流側からの写真がDである。Dを見るとカブール水路から用水が補給されている様子がわかる。



図5 ビアンドラーテ付近のカブール水路

図5はビアンドラーテの水田の様子である。Aは水田への末端水路を写している。その反対側の末端水路から水田に導水する様子を写したものがBである。そのBを横から写したものがCで、Cを反対側から見たものがDである。この写真から、水田の周囲に排水路が巡らされていること、水路から水田に導水する際に、わが国では‘まわし（水路）’や‘ぬるめ（水路）’と呼ばれるような水温を上昇させるためか、水田均平を維持するためかと思われる工夫が見られたことが印象的であった。なお、写真ではわかりにくいので掲載しないが、田越し灌漑が用いられていることも確認した。



図5 ビアンドラーテの水田の様子

3.おわりに

2月と3月はイタリアの水田地帯を紹介した。当方が訪問した水田地帯はきわめて局所的かつ恣意的に選んでいるため、ここで紹介したものがイタリアの水田地帯を代表するものではないことを断っておく。しかし、その中でもわが国の土地改良事業での‘ストックマネジメント’や‘小水力発電’といった政策を思わず思い浮かべるような場面があった。

イタリアを含めてヨーロッパでは、共通農業政策が土地改良事業においても大きく影響していると当方は理解している（間違っていたらご指摘ください）。イタリアやスペインといったヨーロッパで稲作栽培が盛んな国・地域の共通農業政策の特徴は、当方がずっと興味をもっていて、それを知ることは、わが国の土地改良事業にとって大変有益だと考えているが、なかなか研究できる機会がない。いつか研究できるように、頭の体操は続けよう。

4. 余談

今回紹介したエリアは、ノヴァーラの町（図6）を基点に訪問した。ガイドブックにはなかなか掲載されない町であるが、ミラノ・マルペンサ空港からはアクセスが良く、水田地帯へのアクセスも良いイタリアの地方都市である。コメ料理もあり、治安も悪くなく日本人なら居心地の良い町だと思う。是非訪ねてほしい町である。



図6 ノヴァーラの町